

静岡県漁業協同組合連合会  
1096 静岡市追手町 9-18  
16.6.11 054-254-6011  
編集・発行 = 指導部漁政課

### 1. 桜えび春漁終わる 漁獲量、水揚げ金額とも昨年を上回る

県水産試験場では、このほど本年の桜えび春漁の漁獲状況等について、とりまとめ発表しました。それによると、本年の春漁は3月26日夜に始まり、6月3日夜で終漁し、この間の出漁日数は23日(昨年同期20日)、漁獲量は昨年同期を上回る1,526トン(昨年同期約1,443トン)となりました。

平均単価も、2,253円/kgと昨年春漁と同様に高値で推移し(昨年同期2,248円/kg)水揚げ金額も約34億3千6百万円と、昨年を上回りました(昨年同期約32億4千5百万円)。

### 2. 深層水を用いた水温の制御による

#### ウナギの成熟及び産卵で受精率が向上 - 県水試浜名湖分場 -

ウナギは飼育下では卵を産むことはなく、30年以上も人工種苗生産の研究が続けられてきました。平成15年7月に(独)水産総合研究センター養殖研究所は、人工的に得られた受精卵からシラスウナギまでの飼育に初めて成功したと発表しました。しかし、シラスウナギまで成長したのは20尾程度で、これは、人工的に卵を得るために多くのホルモンを使用していることから、良質な受精卵が少ないことによるものと考えられます。

そこで、水産試験場浜名湖分場では、昨年度、焼津に静岡県水産試験場の付帯施設として駿河湾深層水水産利用施設が完成したので、この施設を利用し、低水温で塩分が安定し、清浄性の高い深層水を用いて、ウナギから受精卵を得る試験を2月～4月に行いました。これまで人工的にウナギから卵を得る時には、水温を20℃一定として飼育していましたが、天然海域での水温等を考慮し、成熟の途中から飼育水温を15℃まで低下させました。また、これまで人の手で卵をしぼって精子を加える人工授精を行っていましたが、今回は産卵間近の雌雄を一つの水槽に収容し、水温を22℃まで上昇させ、自発的に産卵をさせる方法(誘発産卵という)を試みました。その結果、従来約半分のホルモンの用量で、1尾当たり約50万粒の卵が得られ、50%以上の受精率を記録することがあり、今回使用した10尾の雌ウナギから合計約80万粒の受精卵を得ることができました。

これまでは雌から卵をしぼり、人工授精等を行ってきましたが、水温制御によりウナギ自身に産卵を促すことで人工授精時とほぼ同等の高い受精率が得られました。これらのことから、より自然に近い状態で受精卵が得られ、省力化、コスト削減につながるものと期待しています。今後、更に自然に近い状態で受精卵を得られるように、成熟時の適正な水温の検討やホルモンの使用量の減少に努め、量産化を目指していきます。

### 3. 浜名湖今切口に浅瀬 漁船航行に支障

浜名漁協では、浜名湖今切口の約500m沖合に砂が堆積して浅瀬ができ、舞阪、新居町の漁船の航行に危険な状態が続いているため、県に対して浅瀬の解消を求めています。

県は昭和48年度今切口東側に、潮流で運ばれる砂で漁船の航路が埋まらないように離岸堤を建設しましたが、別の潮流の影響で、今切口南西側に砂がたまり、10年ほど前か

ら船の航行に支障を与える複雑な波が発生するようになり、平成13年7月には観光船が波などの影響で転覆する海難事故も発生しました。

県は、砂が堆積している海域は県が管理する港湾区域の外側であるが、漁業者が困っている現状を受け、昨年度から周辺の砂の体積状況を調査したもので、今後調査を進め浚渫する場所と量を判断したいとしています。しかし、この区域は港湾区域外で工事がしにくいいため、国と協議して区域を拡張する必要があり、また工事費が多額で国の支援を要請しています。

### 4. 大型クラゲ出現状況等の通報に協力を

大型クラゲが一昨年、昨年と2年連続してわが国周辺に大量に出現し、多くの漁業種類に対して大きな影響を与え、本年も予断を許さない状況となっています。

水産庁及び(独)水産総合研究センターでは、都道府県及び水産関連業界との緊密な連携のもと、出現情報を継続的に収集して、その結果を関係者に通報し、漁業活動に対する悪影響を軽減できるような対策を講じようと計画しています。また情報公開は、情報提供者の氏名を除いて行うことを前提としています。

情報提供方法：発見または漁獲年月日、漁獲位置(漁区、地区名または緯度・経度)、報告者氏名を記載し、ファックスまたは郵送 問合せ先：(独)水産総合研究センター 日本海区水産研究所 住所・〒951-8121 新潟市水道町1-5939-22 電話：025-228-0451 FAX：025-224-0950

### 5. 「第24回全国豊かな海づくり大会」写真コンクールのお知らせ

全国豊かな海づくり大会は、恵みある海の環境を守るとともに、水産資源を守り育て、永く後世に伝えることの大切さを理解してもらい、豊かな海づくりに寄与することを目的に昭和56年から毎年開催されているものです。

今年の、第24回大会は10月3日(日)、香川県高松市において「青い海 守る心に 豊かな未来」を大会テーマに開催されますが、大会の趣旨を広く理解してもらうため、本年も次のとおり写真コンクールを行いますので、多数応募されるようお知らせします。

題材：水産業ならびに海とその生活に関するもの 漁業、漁港、市場、漁村風景、海の生物に関するもの 応募資格：全国の中学校、高等学校及び盲・ろう・養護学校 中学部、高等部の生徒または一般 部門：中学生の部、高等学校の部、一般の部 サイズ等：サービス版(一般の部はキャビネット判以上)～ワイド四つ切のカラー及び白黒プリント、スライド可 応募方法：画題、住所、氏名、年齢、職業又は在学名・学年、電話番号、撮影日時・場所、撮影データを記入した応募票(自作のもの可)を作品の裏面にテープで貼付(ノリ付け不可) 締切日：平成16年7月15日(木)必着 応募・問合せ先：全国豊かな海づくり推進協会 〒101-0047東京都千代田区内神田2-2-1 鎌倉海岸ビル4F 「全国豊かな海づくり写真コンクール係」 TEL:03-5297-2651

### 6. 諸会議・日程 (6月15日(火)～6月28日(月)) - 既報分省略 -

6月22日(火) 県漁業共済組合 = 通常総会 (県水産会館)

〃 県漁船海難救済基金協会 = 理事会・評議員会 (〃)

6月25日(金) 県漁連 = 漁協経理事務研修会 (〃)